

「基礎基本となる学力をしっかりと身につけて、生徒一人ひとりが自分の良さを発揮できる教育」

学力向上推進員	委員
三河 史絵	岩佐 勇汰, 井形 歩, 三河 史絵, 三浦 愛

【各校の取組状況の把握について】

管理職や学年団の教員による授業参観など、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よき・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算力などの「基礎・基本的な力」については、意欲的に取り組むことができる。 ●学力の二極化が見られる。学習に根気よく取り組むことができず、すぐにあきらめてしまう生徒がいる。	・課題に対し、すぐにあきらめず根気強く真剣に取り組むことができる。 ・タブレットを積極的に活用し、基礎・基本的な知識・技能を確実に身に付けて、学習に対しての成就感や達成感をもつことができる。	・単元終了時に小テストの実施や定期テストの達成度6割以上を目標にする。 ・週末課題により家庭学習の定着を図る。 ・一人一台タブレット活用により個別最適化を意識した授業を行う。			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よき・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○生徒総会・全校集会などで、自分の意見がはっきり言える。 ●論理的思考が必要な場面で、筋道を立てて考えることを面倒がり、課題解決に至らない生徒が見られる。	・他者の考えや思いを受け止め、自らの考えを深め表現できる力を身につける。	・人権学習で自分の考えを伝えあい、自分としての意見を持てるようにさせる。 ・一人一台タブレットを活用することにより、お互いの考えを伝えあわせ深い学びを構築する。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よき・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○進んで挨拶ができ、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組むことができる。 ●自尊感情がやや低く、物事を途中であきらめてしまったり、困難なことから逃げたりする生徒が見られる。	・現状に満足するのではなく、常に自己の向上を目指し努力していく姿勢を持つことができる。	・ICT等の活用により、生徒の多様な考えを認め、それを生徒の成長に生かす指導を行っていく。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

